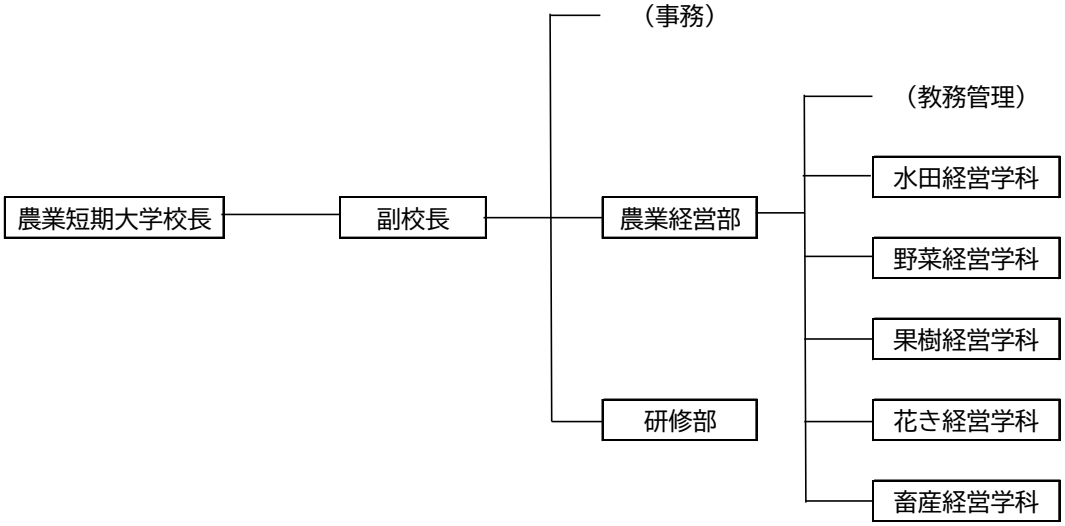
1　農業短期大学校の業務実績

（1）概要

ア　組織



イ　施設

区　分	主　な　施　設　内　容
教育施設	本館(教室、教養ホール、視聴覚教室、職員室、事務室、会議室、講師控室) 研究実験棟(各学科、学科教室(ゼミ室)、実験演習室、研究室、無菌室、培養室) 多目的学習棟(図書室、情報処理演習室、学生ホール) 男子寮(けやき寮)、女子寮(せんだん寮)、食堂、体育館
実習教育施設	実習教育棟、作業棟、機械格納庫、果実選果場、鉄骨ハウス等栽培施設、 乳牛舎、肉牛舎、肥育牛舎、畜産加工演習棟、堆肥舎、パドック、農産物直売所（アグリハウス万菜）
研修施設	屋外トイレ 農業機械実習棟(整備実習室)、トラクタ運転練習コース 農産加工技術センター(開発室、発酵加工室、高湿加工室、粉体加工室)

（2）農業経営部の取組

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、農業に関する講義や実験・演習、実習、研修などの教育を行った。

ア　学生の状況(学年毎の定員、農業経営部 60 名)

（ア）　令和 6 年 4 月現在の学生数は、1 学年 42 名、2 学年 55 名、合計 97 名(前年度 104 名)であり、定員には及ばないが、近年 1 学年 40 名以上の確保ができている状況にある。しかしながら、全国的な少子化の傾向が今後ますます進行することから、学生確保が一層厳しさを増すものとみられる。このようなことから新卒者のみならず広く学生募集を行うため、令和 6 年度より一般入校試験に新たに「社会人等」の受験区分を設けた。

学科別では、水田経営学科 17 名、野菜経営学科 30 名、果樹経営学科 18 名、花き経営学科 13 名、畜産経営学科 19 名の在籍数となっている。

出身高校別では農業課程が 50 名、普通課程 33 名、その他が 14 名であり、農業高校出身の学生が 52%となっている。

農家・非農家別では専業農家 19 名、兼業農家 16 名、非農家 62 名であり、非農家出身の学生が 6 割以上を占めている。

出身地域別では県北 25 名、県中 28 名、県南 7 名、会津 13 名、南会津 1 名、相双 6 名、いわき 7 名、県外 10 名であり、各地域からの応募がある。

（イ）　令和 6 年度の専門士(農業専門課程)の称号が付与される者(卒業生)は、53 名であった。

（ウ）　独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与者は、1 学年 8 名（1 名は令和 7 年 1 月で給付辞退)、2 学年 7 名であった。

（エ）　学生寮の令和 6 年度の入寮は、2 学年は男子 25 名、女子 7 名、1 学年は男子 14 名、女子 9 名であった。

イ　専修教育の状況

（ア）　水田経営学科

１学年は、農場実習で水稲、麦類、大豆、イモ類などの食用作物の栽培や加工を体験し、基礎的な技術、観察力などを身に付けた。また、県内・県外研修や先進農家等留学研修により、実践的な経営感覚を養った。

２学年は、卒業論文における研究対象の作物を水稲または畑作物から選択し、研究成果を就農後に活用できるような課題に取り組むとともに、作物の栽培や調査研究を通して、高度な技術と経営感覚を身につけた。

JGAP 及び FGAP については、「米（玄米)」、「そば」、「小麦」で認証を取得しており、更新審査に当たって講義や実習で新たなリスクを評価するとともに、農場施設及び帳簿の点検作業を行い、学生が主体となって受審した。

生産物の販売促進に関しては、大玉村『あだたらの里「福、笑い」栽培研究会』の一員として県オリジナル水稲品種「福、笑い」の栽培と直売イベント「福島県と安達地方の観光物産展（会場：東京都台東区浅草寺)」への参加、本校産小麦を使用した乾麺「アグリカレッジ福島のうどんだばい」の販売と矢吹町ふるさと納税返礼品としての提供、本宮市の酒造メーカー「大天狗酒造(株)」と連携して取り組んできた本校産「福乃香」を使った日本酒「青春の詩」の販売などの成果があがった。

スマート農業については、福島大学食農学類の准教授２名によるスマート農業に関する講義を受講し、最新のスマート農業の動向について知識を深めた。あわせて、スマート農業機械を操作する実践的な研修を受講した。

学生の進路については、2 年生 9 名のうち 4 名が卒業後に就農した（自家就農 2 名、雇用就農 2 名)。

（イ）　野菜経営学科

1 学年は、県内で栽培が盛んで就農時の経営の柱となるきゅうりやトマト、アスパラガス等の栽培の基礎を学び、その他多品目を組み合わせて周年で営農する農業技術や農業機械の操作などについても学習し知識・技術を高めたほか、県内先進農家において長期研修を行い優れた技術や経営について学んだ。

2 学年は、産地の課題解決や高収益生産などの卒業論文調査研究に取り組むとともに、6 回開催の直売実習などにおいて学生が生産物を消費者に直接販売するなど、高度な栽培技術の習得や経営実践力を養った。また、産地は農業者の係る優良事例について自ら企画して現地で視察・調査を行い知識や技術を高めた。

JGAP 及び FGAP の認証を取得しているトマトやきゅうりにおいて、学生によるリスク評価や管理作業及び収穫の記録作成等の実践が定着するとともに、更新審査の準備、事前の模擬審査について学びを深めた。

学生の進路については、2 年生 15 名のうち 1 名が自家就農、8 名が雇用就農した。

（ウ）　果樹経営学科

JGAP、FGAP の認証品目である「ぶどう」「かき」部門において、学生主体の実践活動が定着した。特に、経験の浅い 1 年生に対し、2 年生が分かりやすく指導、助言するなど、学生間での技術の伝承が進み、GAP に対する意識は大きく向上した。

果樹の生育状況は、春先の気温が高く、開花時期が平年より 5 日程度早まったが、適期管理により高品質果実の生産が実現できた。また、生産物の販売を学生が主体となって担うことにより、責任感を持ち、達成感を味わわせることができた。その際、いくつかの事業所を訪問しての販売活動を通して農業経営における顧客管理の重要性も体感することができた。

学生の進路については、4 名が就農（自家就農 2 名、雇用就農 2 名)、2 名が就農前研修開始した。

（エ）　花き経営学科

花き経営の基礎である栽培管理については、高温障害の影響で一部のキクに開花遅延が見られたものの、各栽培品目共に順調に生育し、計画どおりの生産・販売を行うことができた。特に夏場の早朝収穫実習や校内外の直接販売の実習など、学生自ら生産から販売まで実践し、技術力や販売力を養うことができた。

また、県内の先進農家や県外の生花店、花き関連展示会への視察研修を行うなど高度な栽培技術や先進的な経営感覚を実際に体験し、花き経営への知識を深めることができた。

GAP の一環として、令和 3 年度に取得した「花き日持ち品質管理認証」について継続認定を受けるとともに、認証シールを宿根カスミソウの販売時に貼付するなど、学生は花きの日持ち性向上の意義を認識し、実習に取り組んでいる。

学生の進路については、2 年生 8 名のうち 3 名が雇用就農した。

（オ）　畜産経営学科

講義や実習を通して乳用牛や肉用牛に関する知識や飼養管理技術の習得に努めた。特に、責任分担制の下、当番の学生による夜間の牛舎見回りや休日の飼養管理、早朝の出荷作業等を実施させることにより、学生全員が農場の共同経営者となり責任を持って管理するという意識醸成を図った。

また、本校として初めて校内産牛肉の販売実習を行い、牛を育てるだけではなく、繁殖から肥育、流通、販売までの一連の流れを実践的に学ぶことで、経営感覚の醸成を図った。

校外活動では、共進会や枝肉共励会、各種研修会への参加、乳業工場や畜産研究所等の視察研修を実施した。

学生の進路については、2年生12名のうち1名が自家就農、6名が雇用就農した。

（カ）　その他特徴的な取組

ａ　福島大学食農学類との連携の具現化(本校教育への支援、福大生実習受け入れ、学生の交流活動、他)

○卒業論文発表会審査委員長　　深山陽子教授
○講義(スマート農業実践)　　窪田陽介准教授、渡邊芳倫准教授

ｂ　GAPの取組

（ａ）　GAP概論の開講

本校職員、環境保全農業課職員、GAP・ITサポート合同会社佐久間輝仁代表を講師としてGAP概論を実施した。講座では、GAPの基本理念や本県での取組状況の説明、グループワーク、本校農場における取組状況の見学等を行い、GAPに関する理解を深めた。

（ｂ）　JGAP審査に向けた学生指導の強化

維持審査に向けて模擬審査を実施し、学生に審査の流れや書類の内容を把握させるとともに、農場審査に対する準備を実施させた。学生は、維持審査にも立ち会い、審査作業の補助等を行うことで、審査への理解を深めた。

（ｃ）　JGAP認証品目

水田経営学科　米(玄米)、そば、小麦
野菜経営学科　トマト、きゅうり
果樹経営学科　ぶどう、かき　　＊更新認証日：令和5年12月4日

（ｄ）　JGAP指導員資格取得　2学年1名、1学年4名

ｃ　スマート農業に係る人材育成(教職員の技術習得、研修講座開設)

（ａ）　スマート農業実践の開講

本校職員、福島大学食農学類准教授2名によるスマート農業に関する講義と、農業機械メーカー((株) ヰセキ東北)と連携し、スマート農業機械(4機種)を操作演習する研修を実施した。

ｄ　地域との連携

（ａ）　農業体験の受入(認定こども園ポプラの木、中島幼稚園、三神小学校)
（ｂ）　矢吹町と本校との連携協定による取組「フロンティア農園」による町民との交流(5回開催、参加数延べ28名)や子供食堂への食材提供。
（ｃ）　インターンシップの受入(郡山萌世高等学校定時制課程5名)
（ｄ）　JA東西しらかわとの連携協定に基づくコシヒカリ100kgの受領
（ｅ）　矢吹町広報誌への本校学生の紹介記事掲載
（ｆ）　おもてごうマルシェへの参加

ｅ　販売活動

（ａ）　直売実習

アグリハウス万菜を会場に、年間6回（6/14,7/18,8/9,9/18,10/31,11/22）の直売実習を実施した。毎回、実行委員会を開催して、販売計画や年間テーマ、PRチラシの作成を行った。

（ｂ）　福､笑いの販売

県オリジナル水稲品種「福、笑い」を「あだたらの里『福、笑い』栽培研究会」の一員として栽培し、東京都台東区浅草寺境内で開催された「福島県と安達地方の観光物産展」で販売した。なお、本校産「福、笑い」はあだたらの里直売所でも一般販売された。

（ｃ）　農業総合センターまつりにおける農産物販売の実施

農業総合センターまつりに2学年が参加し、水田：乾麺、小麦粉、野菜：ﾐﾆﾄﾏﾄ、ﾀﾏﾈｷﾞ、ﾆﾝﾆｸ、ﾋﾟｰﾏﾝ等、花き：ドライフラワー、切り花ミックスなどの農産物を販売した（9/6,7、販売は6日のみ)。

（ｄ）　牛肉の販売実習

本校としては初めて本校産牛肉の販売実習をスーパーマーケットいちい3店舗で実施した（11/29)。

ｆ　情報発信
（ａ）　テレビ・ラジオによる学生募集案内
＜県政広報テレビ番組２回＞
ｉ　おしえてキビタン（6/8 放送「アグリカレッジ福島　オープンキャンパスに行こう！」）
ii　キビタン Go（1/15 放送「農業研修でスキルアップ」）
＜ラジオ　10 回＞
ｉ　農家の皆さんへ（10 月、12 月）２回
ii　キビタンスマイル（5 月、11 月、1 月）３回
iii　テレビ・ラジオ３０秒スポット CM　５回
オープンキャンパス参加者募集（6 月）、欅隆祭開催（10 月）
一般入試前期（11 月）、一般入試後期（12 月）、長期研修生募集（１月）
（ｂ）　県の公式アプリ「ふくしまポータル」１回
欅隆祭開催(10 月)
（ｃ）　新聞広報(県からのお知らせ)4 回
オープンキャンパス参加者募集(6 月)、一般入校試験前期(11 月)
一般入校試験後期(12 月)、長期研修生募集(１月)
（ｄ）　矢吹町広報誌「広報やぶき(農短大生のひとりごと)」12 回
（ｅ）　外部講師の指導の下での学生による SNS での情報発信
（ｆ）　テレビ、雑誌による GAP の取組紹介
ｉ　福島テレビ「サタふく」 9 月 21 日放送
ii　月刊誌「ＣＪ　Ｍｏｎｍｏ」10 月 25 日発行

ｇ　学生募集
（ａ）　県外(東京、千葉、埼玉、栃木ほか)への学校要覧の送付
近年は他県よりオープンキャンパスへの参加者及び受験生がいるため、隣県及び入稿した実績のある県(高校)への情報提供を行った。
（ｂ）　通信制、定時制への学校訪問
近年、通信制、定時制からの学生応募が増加しているため実施した。
（ｃ）　オープンキャンパスの時間短縮
予定どおり 3 回開催した。
新施設への関心の高さから、生徒及び保護者、その他を含め 191 名の参加があり、その内生徒数は 90 名と例年になく多くの生徒の参加があった。

ｈ　その他
（ａ）　今年度欅隆祭において農業関連企業、地元飲食店、農業法人、キッチンカーによる販売や企業紹介。福島明成高校による販売や光南高校による活動紹介などを行った。来場者は約 2,300 名となった。
（ｂ）　卒業記念講演
3 月 3 日(月)に福島観光物産館の櫻田武館長による記念講演を実施した。

ｉ　統合事業関係
「令和 5 年度福島県特定原子力施設交付金事業」を活用して新たなパイプハウスを 1 棟新設し、長期就農研修生受け入れ強化を図った。

ウ　進路指導の取組
（ア）　就農への誘導
令和 6 年度卒業生の進路状況は、就農 28 名(53%)、農協・農業団体 3 名(6%)、農業関連産業 9 名(17%)、他産業 6 名(11%)、公務員 4 名(8%)、未定 3 名（5%）であり、就農率は過去最高となった。
ａ　令和 3 年度から就農支援サポート支援員(１名)を配置し、新規就農にかかる支援体制の充実、強化を図っている。県内の農業法人や各市町村、各農林事務所との連携を図り、親元就農に向けた準備支援や、雇用就農者を増やすための農業法人と学生とのマッチング、学生への個別相談、受け入れ可能な農業法人の掘り起こし、就農相談会、各農林事務所及び各方部の就農コーディネーターとの懇談会の開催等を行った。
ｂ　学生の就農意欲高揚のため、１学年を対象とした就農相談会「相双地域における農業法人等視察相談会」等に参加した。
ｃ　就農予定学生と農林事務所の懇談会を 2 回開催し、学生への情報提供を行った。

（イ）　進路に対する意識付けと支援
ａ　１学年を対象として 8 月に進路希望調査を実施した。
ｂ　学生の進路に対する目的意識を強く持たせるとともに、就職を希望する学生に対しては就職活動における心構えを、また、自家就農を希望する学生には雇用する立場となる経営者としての資質向上が図られるよう、就農講座、農業法人等就職講座において指導を実施した。

ｃ　ハローワーク白河と連携し 2 学年 42 名を対象に、ジョブサポーターによる就職に向けた授業を実施した。また、ふくしま生活・就職応援センターと連携し、 1 学年 11 名を対象に個別面談を実施した。

（ウ）資格取得支援

ａ	大型特殊免許（農耕車に限る）	2 学年 39 名が免許を取得した。
ｂ	けん引運転免許（農耕車に限る）	2 学年 36 人が免許を取得した。
ｃ	毒物劇物取扱者	1 学年 1 名が資格を取得した。
ｄ	刈払機取扱作業者安全衛生教育	1 学年 36 名、2 学年 1 名受講
ｅ	アーク溶接業務特別教育	1 学年 32 名受講
ｆ	家畜人工授精師	畜産経営学科 2 学年 8 名が資格を取得した。

（エ）就農準備資金の活用

ａ　就農準備資金は、就農を希望する青年が農業技術及び経営ノウハウの習得のための長期の研修実施を支援する制度で、交付金が年額 150 万円で最長 2 年間交付される。 本校農業経営部の学生と研修部長期研修の研修生が交付要件を満たす研修として位置づけられている。2 学年 11 名、 1 学年 10 名、長期就農研修生 4 名が受給した。

ｂ　本制度を活用した 2 学年の就農分野は、親元就農 1 名、雇用就農 10 名であった。

エ　学生募集の取組

（ア）　募集要項等の送付

募集要項等を高校 164 校、県の 36 機関、59 市町村、16 団体に送付し、学生募集への協力を依頼した。

（イ）　高校訪問他

県内の高校 80 校を訪問し、進路担当教員に対して、本校の概要及び募集について説明するとともに生徒の進路希望状況について調査した。加えて県外高校 3 校に訪問した。

（ウ）　進路説明会への参加

高校主催の説明会 30 校延べ 39 校に参加し、本校の概要等について説明した。また、郡山、白河会場での進学相談会に参加した。

（エ）　オープンキャンパスの開催

7 月 21 日(日)、7 月 26 日(金)、8 月 3 日(土)にオープンキャンパスを開催し、本校の施設及び講義内容等について説明した。35 校 90 名の高校生等及び 107 名の保護者が参加した。案内は高校 116 校、59 市町村、農林水産部の 16 機関、2 団体に送付し、協力を依頼した。

（オ）　県広報の活用

広報課 30 秒スポット放送 5 回、キビタンスマイル(ふくしまＦＭ)3 回、農家の皆さんへ(ラジオ福島)2 回で学生募集を行った。

（カ）　学校見学の受け入れ

県立高校 9 校の生徒 52 名、教員 3 名が来校し、農業の現状に関する施設・設備の見学及び教育内容の説明を行った。

（キ）　募集結果は、推薦入校試験受験者 40 名、一般入校試験(前期)受験者 16 名、一般入校試験(後期)受験者 6 名の計 62 名が受験し、58 名が合格となった。

オ　学生数

（ア）学科別　　※令和６年４月時点

学　科	1学年			2学年			計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
水田経営学科	7	1	8	9	0	9	16	1	17
野菜経営学科	11	4	16	13	2	15	24	6	30
果樹経営学科	4	3	7	10	1	12	14	4	19
花き経営学科	1	4	5	6	2	8	7	6	13
畜産経営学科	7	0	7	6	6	12	13	6	20
計	30	12	42	44	11	55	74	23	97

（イ）農家、非農家別　　※令和６年４月時点

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
農家 専業	8	19	11	20	19	20
農家 兼業	9	21	7	13	16	16
農家 計	17	40	18	33	35	36
非農家	25	60	37	67	62	64
合 計	42	－	55	－	97	－

（ウ）出身高校課程別　　※令和６年４月時点

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
農業高校	23	55	27	49	50	52
普通高校	11	26	22	40	33	34
その他	8	19	6	11	14	14
合 計	42	－	55	－	97	－

カ　教育科目

区分		科目名	単位数	授業時間数			授業回数（時限数）			
							1学年		2学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
共通教養科目	全学科共通	生物基礎	1	15			8			
		化学基礎	1	15			8			
		数学基礎	1	15			8			
		国語表現Ⅰ	1	15			8			
		国語表現Ⅱ	1	15				8		
		国語表現Ⅲ	1	15					8	
		人間と社会	1	15					8	
		体育	4	60			10	10	3	7
		教養講座	1	15				8		
		就農講座Ⅰ 農業法人等就職講座Ⅰ	2	30				15		
		就農講座Ⅱ 農業法人等就職講座Ⅱ	1	15					8	
		❶ 小計	15	225	0	0	42	41	27	7

区分		科目名	単位数	授業時間数			授業回数（時限数）			
							1学年		2学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
共通専門科目	全学科共通	農業経営	2	30					15	
		農業経営演習	2	30						15
		農業法規	2	30						15
		農業関連産業論	1	15			5	3		
		簿記概論	3	45			23			
		農業情報処理基礎	2	30				15		
		農業情報処理応用	1	15					8	
		農業情勢Ⅰ	1	15						8
		農業情勢Ⅱ	1	15						8
		土壌肥料概論	2	30			15			
		農業機械	2	30			15			
		農業機械基礎実習	1			45	6	17		
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			23	
		マーケティング論	1	15					8	
		マーケティング演習	2	30					4	11
		食品製造	1	15				8		
		スマート農業実践	1	15				8		
		GAP 概論	1	15			8			
		卒業論文	10	150				15	30	30
		簿記検定講座*	2	30				14		
		毒物・劇物取扱解説*	1	15			8			
		毒物劇物取扱者資格講座*	1	15			8			
		農業機械操作実習Ⅱ*	1			45			23	
		❷ 小計 （*自由選択科目を除く）	37	525	0	90	72	66	88	87
専門科目	水田野菜果樹花き学科共通	農業概論	2	30			15			
		作物保護	2	30				15		
		植物生理	1	15			8			
		環境保全と農業	2	30						15
		有機農業	1	15					8	
		農産物流通	1	15						8
		農学実験	1		30		8	7		
		❸ 小計	10	135	30	0	31	22	8	23
	水田経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		水田経営研修	2			90	10	12	19	4
		作物経営実習	25			1125	140	130	195	98
		水田経営基礎	2	30			15			
		水田経営応用	2	30				15		
		水田経営実践	2	30					8	7
		食品製造演習	2	30			4	11		
		❹-1 小計	40	120	0	1440	214	168	222	109
	野菜経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		野菜経営研修	2			90	10	12	19	5
		野菜経営実習	25			1125	140	130	195	98
		野菜生産概論	2	30			15			
		野菜栽培各論	2	30				15		
		野菜経営各論	2	30					8	7
		食品製造演習	2	30			4	11		
		❹-2 小計	40	120	0	1440	214	170	221	109

区分		科目名	単位数	授業時間数			授業回数（時限数）			
							1学年		2学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
専門科目	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		果樹経営研修	2			90	10	12	19	4
		果樹経営実習	25			1125	140	130	195	98
		果樹生産概論	2	30			15			
		果樹栽培各論	2	30				15		
		果樹経営各論	2	30					7	8
		食品製造演習	2	30			4	11		
		❹-3　小計	40	120	0	1440	214	168	222	109
	花き経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		花き経営研修	2			90	10	12	19	4
		花き経営実習	25			1125	140	130	195	98
		花き生産概論	2	30			15			
		花き栽培各論	2	30				15		
		花き経営各論	2	30					7	8
		フラワー装飾演習	2	30				15		
		❹-4　小計	40	120	0	1440	210	172	222	109
水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計（❶、❷、❸、❹）			102	1,005	30	1530	350	282	336	218
専門科目	畜産経営学科	畜産概論	1	15			8			
		家畜育種学	1	15				8		
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15				8		
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30					15	
		家畜栄養学	1	15			8			
		家畜衛生学	1	15					8	
		畜産環境保全	1	15						8
		家畜解剖生理学	1	15			8			
		家畜解剖実験	1		30		15			
		先進農家等留学研修	5			225	45			
		畜産経営研修	2			90	10	12	19	5
		畜産経営実習	25			1125	132	138	188	105
		乳用牛・肉用牛概論	2	30			15			
		飼料作物	1	15					7	
		食品製造演習	2	30				15		
		乳用牛飼養管理技術応用 肉用牛飼養管理技術応用	2	30				15		
		乳用牛経営 肉用牛経営	1	15						8
		❺　小計	50	255	30	1440	245	192	246	117
畜産経営学科必修科目合計（❶、❷、❺）			102	1005	30	1530	359	299	361	211

履修科目 （必修科目102単位、自由選択科目5単位の合計）	107	1065	30	1575	660		576	

キ　非常勤講師一覧

科目			講師名	所属・職・機関
共通教養科目	全学科共通	化学基礎	大和田範雄	元高校教師
		国語表現Ⅰ	伊藤 晴	ベスト学院株式会社
		国語表現Ⅱ	引地彩夏	ベスト学院株式会社
		体育	水野純子	メディカルフィットネスさくら
		人間と社会	樽川千香子他	アルファ電子株式会社代表取締役社長

	科目	講師名	所属・職・機関
共通専門科目 全学科共通	農業経営	川西 学 久野雅己	税理士法人三部会計事務所 株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役
	農業経営演習	高原一司	日本政策金融公庫
	農業法規	本庁職員	福島県庁
	農業関連産業論	清野博樹 担当職員	元気象庁職員 福島県農業協同組合中央会 福島県農業共済組合
	簿記概論	宗像春望	会計コンサルタント
	農業情報処理基礎	志間幸恵	シップスパソコンスクール
	農業情報処理応用	志間幸恵	シップスパソコンスクール
	農業情勢Ⅱ	本庁職員	福島県庁
	土壌肥料概論	大和田範雄他	元高校教師
	マーケティング論	横尾恵美	しゅふコミ代表
	マーケティング演習	横尾恵美	しゅふコミ代表
	食品製造	郡司尚子	郡山女子大学准教授
	ＧＡＰ概論	佐久間輝仁	GAP･IT サポート合同会社代表
専門科目	作物保護	草野憲二	福島県植物防疫協会
	環境保全と農業	谷口崇至	AW エンジニアリング代表取締役社長
	農産物流通	久野雅己	株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役
	フラワー装飾演習	中村良美	フラワースタジオ POCO A POCO 主宰
	家畜育種学	國分洋一	元県職員
	家畜栄養学	土屋友充	元県職員
	家畜衛生学	担当職員	中央家畜保健衛生所
	家畜解剖生理学	二瓶由佳	元県職員
	家畜解剖実験	担当職員	中央家畜保健衛生所
	飼料作物	國分洋一	元県職員

ク　教育行事

月　日	行　事　名
令和 6年 4月 9日	始業式
10日	入校式
11日	学生健康診断・オリエンテーション
30日	防災避難訓練
5月中	卒業論文設計発表会
31日	スポーツ大会
6月 5日	植付祭
6月21日～ 7月 5日	先進農家等留学研修(前期)
14日	直売実習（1回目）
7月17日	学校記念日
18日	直売実習（2回目）
21日	オープンキャンパス（1回目）
26日	オープンキャンパス（2回目）
8月 3日	オープンキャンパス（3回目）
9日	直売実習（3回目）
10日～19日	夏期休業
22日～ 9月 5日	先進農家等留学研修（後期）
9月 4日	毒物劇物取扱者資格試験
18日	直売実習（4回目）
24日～27日	前期試験（1･2学年）
10月 1日	後期授業開始
20日	欅隆祭
31日	直売実習（5回目）
11月12日	校内意見発表会（1学年）
14日～15日	球技大会(学生自治会、寮自治会主催)
15日	収穫祭、
17日	日商簿記検定試験
22日	直売実習（6回目）

月　　日	行　　事　　名
12月12日	始業式
14日～ 1月6日	入校式
	学生健康診断・オリエンテーション
令和 7年 1月15日～16日	東日本農業大学校等プロジェクト発表・交換大会
23日～24日	後期試験（2学年）
20日～ 2月21日	家畜人工授精に関する講習会
2月12日～13日	後期試験（1学年）
17日～22日	海外農業研修（タイ、ニュージーランド）
23日	日商簿記検定試験
3月 3日	卒業記念講演会
	（講師：福島観光物産館櫻田武館長）
6日	終業式
7日	卒業式
10日～ 4月 8日	春期休業

ケ　各種表彰者

月　　日	行事名	結　果
令和6年 11月12日	意見発表会	最優秀賞 「私は将来ドローンを使って牛を放牧したい」 畜産経営学科１年　門馬聖弥 優秀賞1席 「農業をもっと身近な存在に」 果樹経営学科１年　伊藤孝誠 優秀賞2席 「農業で守っていく」　野菜経営学科１年　橋本圭祐
令和6年 12月12日	卒業論文発表会	最優秀賞 「カンショ新品種『あまはづき』の品種特性について」 水田経営学科２年　大関仁之 優秀賞１席 「牧草収穫跡地における飼料用トウモロコシの不耕起栽培」 畜産経営学科２年　三浦さくら 優秀賞２席 「細霧装置使用による暑熱対策の効果」 畜産経営学科２年　安齋彩夏

コ　卒業生の進路状況

進　　路		農業経営部
就　農	自家	5
	法人	21
	研修	2
	小計	28
非就農	農協	1
	農業団体	2
	農業関連産業	9
	他産業	6
	公務員	4
	進学	0
	小計	22
未定		3
合　　計		53

（３）研修部の取組

ア　研修実施状況

就農研修は新規就農希望者や新規就農者の技術習得を目的として初級・中級コースを設け、受講希望者のレベルに応じた体系により実施した。

長期就農研修は就農希望者が就農後の農業経営を早期に安定できるよう、１年を単位とした実習主体の研修として実施した。

就農研修の初級・中級、長期就農研修の実施を通して、長期就農研修12名(内果樹6名)が新規就農した。

また、「令和5年度福島特定原子力施設地域交付金事業」を活用し、新たにパイプハウス1棟を増設して長期就農研修生受入れ強化を図った。

農産加工研修は、加工初心者を対象とした「基礎コース（全4回継続参加)」を年2回開催し農産加工に必要な講義を実施した。実際に農産加工品開発を行っている方を対象に「応用コース」を開催し、より高いレベルの商品開発につなげた。新設の「技術コース」では、加工食品の保存方法について実習を行った。

農業機械研修では、大型特殊免許及びけん引免許(いずれも農耕車限定)の取得支援を目的とした「安全運転技術総合コース」、農業機械の基本操作や点検整備、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業を学ぶ「技術向上コース」を実施した。

また、農業者が抱える課題解決のため、本校の施設・設備を活用する施設利用研修については就農・農産加工・農業機械の各種研修体系の中に組み入れて実施するとともに、農作業安全に関する研修については現地の要請に応じ実施した。

イ　研修実績

（ア）就農研修

ａ　初級

名　称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(ａ)春コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習	県内の新規就農希望者等 15名	15名	5～7月(5日) (日曜日を中心に開催)
(ｂ)秋コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習		10名	9～11月(5日) (日曜日を中心に開催)

ｂ　中級

名　称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(ａ) 中級	[講義、演習、見学] 必修科目：土壌肥料 農業経営、農業機械、鳥獣害対策 選択科目：水稲、野菜、果樹、花き、畜産、有機農業	県内の新規就農希望者等 15名	15名	5～8月 (必修科目10日) (選択科目各4日) (平日開催)

ｃ　長期就農研修

名　称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間
(ａ)長期就農研修	[実習、講義] 栽培管理実習を柱にした1年間の研修 研修科目： 施設野菜、露地野菜、果樹、花き、水稲・畑作物、畜産、有機栽培 研修場所： 農業短期大学校、果樹研究所、本部、会津地域研究所、浜地域研究所、畜産研究所	福島県内で農業により生計を立てることを目標とし、就農前に農業の知識及び技術の習得を目指す者 21名(左記の研修場所における総受入れ人数)	13名 内訳 農業短大 6名 果樹研 7名	令和6年4月 ～ 令和7年3月

（イ）農産加工研修

ａ　基礎（春コース）

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示	農産物加工販売予定者15名	16名	5/16(1日)
（ｂ）殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介			5/24(1日)
（ｃ）瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法			5/31(1日)
（ｄ）事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営			6/12(1日)

ｂ　基礎（秋コース）

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示	農産物加工販売予定者15名	8名	9/11(1日)
（ｂ）殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介			9/18(1日)
（ｃ）瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法			10/ 2(1日)
（ｄ）事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営			10/16(1日)

ｃ　応用

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）加工技術応用	・新商品づくり ・食品の殺菌方法	農産物加工販売者15名	10名	8/21(1日)

ｄ　施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期間(日数)
（ａ）農産加工	・行者ニンニクの加工	福島県農産物加工者連絡協議会	15名	6/13(1日)
	・水ようかんのレトルト加工	(株)ニューキムラヤ	4名	7/17(1日)
	・県産素材を使用したジェラート	県産品加工支援センター	7名	9/12(1日)
	・シイタケのオイル漬け試作	合同会社フォーユー	4名	9/13(1日)
	・金山カボチャの加工	福島県農産物加工者連絡協議会	17名	10/30(1日)
	・音波振とうした米粉のシフォン加工	ハチコシフォン	2名	1/28(1日)
	・玄米おかゆとリゾットのレトルト加工	菅原農園	3名	2/27(1日)

（ウ）農業機械研修

ａ　安全運転技術総合コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）けん引操作（農耕車限定）	・けん引免許（農耕車限定）取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等各9名	42名	第1回　5/21～ 5/23(3日) 第2回　5/28～ 5/30(3日) 第3回　6/ 4～ 6/ 6(3日) 第4回　6/11～ 6/13(3日) 第5回　6/25～ 6/27(3日) 第6回 10/ 1～10/ 3(3日) 第7回 10/ 8～10/10(3日)
（ｂ）大型特殊操作（農耕車限定）	・大型特殊免許（農耕車限定）取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等各9名	34名	第1回 10/15～10/17(3日) 第2回 10/29～10/31(3日) 第3回 11/12～11/14(3日) 第4回 11/26～11/28(3日) 第5回 12/ 3～12/ 5(3日)

ｂ　技術向上コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）初めての刈払機	・刈払機の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等各8名	14名	第1回　5/16（1日） 第2回　8/21（1日）
（ｂ）田植機の整備点検	・整備点検技術の習得	農業者等各10名	15名	第1回　2/ 5(1日) 第2回　2/ 6(1日)
（ｃ）初めての農機整備	・農業機械（トラクタ、刈払機管理機）の点検整備	農業者等各8名	16名	第1回　9/ 4（1日） 第2回　1/15（1日）
（ｄ）スマート農業	・ドローンの基本知識及び飛行操作体験 ・ロボット通信技術及び情報通信技術(ICT)の基礎知識	農業者等各8名	14名	第1回 12/18（1日） 第2回 12/19（1日）
（ｅ）初めてのアーク溶接	・アーク溶接の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等8名	7名	2/12～ 2/13(2日)
（ｆ）トラクタ操作技術向上	・トラクタの基本操作 ・ロータリ耕 ・点検整備	農業者等各8名	17名	第1回 11/ 6～11/ 7(2日) 第2回 11/20～11/21(2日)

ｃ　農作業安全推進コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
（ａ）現地支援研修 現地で学ぶ農作業安全	・農作業事故の現状 ・農機械の安全対策	矢吹町・弥栄地区	15名	6/ 2(1日)
		JA東西しらかわ本店	13名	7/ 9(1日)
		JA夢みなみ石川地区	30名	9/26(1日)
		県北農林事務所	16名	11/15(1日)
		南会津農林事務所	7名	12/10(1日)
		白河市農業経営アカデミー	14名	2/26(1日)

ｄ　施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期　間(日数)
（ａ）農業機械	・農作業安全	郡山市園芸振興センター研修生	3名	5/17(1日)
	・専門技術向上研修	普及指導員	20名	6/ 7(1日)
	・農作業安全	東京農業大学生	6名	6/21(1日)
	・農作業安全	女性農業者	18名	11/ 8(1日)
	・大型特殊操作	長期就農研修生	4名	1/23～ 1/24(3日)
	・けん引操作	郡山市園芸振興センター研修生ほか	6名	1/29～ 1/31(2日)
	・大型特殊操作	長期就農研修生（果樹研研修生	3名	3/13～ 3/14(1日)

２　福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催

大学校が適切かつ円滑に運営されるよう、大学校の教育・研修等の基本的事項について、県内各層の意見を徴し、助言を求めるため設置。令和２年度からは学校教育法に基づく学校関係者評価委員会を兼ねる。

（１）　農業短期大学校運営会議の開催

開催日	開催場所	テ　ー　マ
令和7年 2月3日	農業総合センター 農業短期大学校教養ホール	1　令和６年度の教育実績 2　学校評価 3　令和７年度の教育内容 4　学生の活動紹介（映像による学校・学科紹介） 5　意見交換

（２）　運営会議委員（敬称略）

氏名	所属・役職名等
橋本　淳一	福島県指導農業士会　会長
中田　幸司	うつくしまふくしま農業法人協会　会長
鈴木　正洋	福島県農業会議　担い手・経営対策部長
宍戸　隆之	福島県農業協同組合中央会　JA総合支援部長
菅野　雅敏	就農支援センター　所長
鈴木　憲治	福島県高等学校教育研究会農業部会　部会長
高橋　秀和	福島大学　教授
志間　幸恵	大学校外来講師
中山　展夫	農業短期大学校後援会　会長
小沢　充博	農業短期大学校同窓会　会長
佐藤　周	農業担い手課　課長